

平成 24 年 6 月期 環境報告(要約版)

会社名:スズトクホールディングス株式会社

経営責任者名:代表取締役 鈴木 孝雄

作成日:平成 25 年 2 月 14 日

問合せ先:遵法・環境室課長 山本 紀行

会社 URL 又は住所:東京都千代田区神田錦町三丁目 18 番 3

<http://www.suzutoku.co.jp/ho>

当社の平成 24 年 6 月期における主な環境配慮の状況は、以下のとおりです。

I. 基本的事項

対象組織の範囲 ^(注1)	<input checked="" type="checkbox"/> 連結	<input type="checkbox"/> 単体及び主要な子会社	<input type="checkbox"/> 単体
捕捉率 ^(注2)		(%)	(%)
範囲の変更の有無	<input type="checkbox"/> あり	<input checked="" type="checkbox"/> なし	
対象期間 ^(注3)	平成 23 年 7 月 1 日～平成 24 年 6 月 30 日		
期間の変更の有無	<input type="checkbox"/> あり	<input checked="" type="checkbox"/> なし	

(注1) 主要な子会社名及び範囲の方針 ()

(注2) 捕捉率の算定基準 ()

(注3) 財務期間との差異 ()

II. 経営責任者の緒言や方針に関する事項

1. 経営責任者の緒言

「ハート」を胸に次の世代に誇れる社会を残したい。

2012 年、スズトクホールディングスは設立 5 周年、グループの(株)鈴徳は創業 108 年、中田屋(株)は設立 61 年を迎えました。

リーマンショック、東日本大震災など、激動の 5 年間を乗り切ることができたのは、ひとえにお客様、お取引先様、地域の方がたのご愛顧、ご協力があつてこそ。心よりお礼申し上げます。

5 年を経て、私たちの本業である総合リサイクル業に対する期待は、ますます大きくなっています。これは私たちの事業そのものが、環境保全や温暖化対策などの国策の推進に直結するものだからと認識しています。こうした期待に応えるためにも、私たちは「利益」より、社会に貢献するという「ハート」を大切にする企業でありたいと考えています。

「目に見えるものをすべて再資源化する」という意気込みで、人材教育、新設備導入、研究開発などに積極的に投資。技術力にさらなる磨きをかけ、資源リサイクルの可能性を追求していきます。

「総合リサイクル業」は未来をつくる仕事――。

これからも、次の世代に誇れる高度循環型社会の実現に邁進していく所存です。

2. 環境配慮の方針

スズクグループは、9社すべてで国際規格 ISO14001 に適合する環境マネジメントシステムを整備。各社・事業所ごとの目標を設定し、事業活動における環境負荷低減を目指しています。

1. 環境マネジメントシステムの概要

私たち「リサイクル業」の特性の一つに、事業内容がそのまま環境保全に結びつくことがあります。そのため、グループの EMS 運用にあたっては、本業の事業品質をさらに高度化することで、循環型社会の形成に貢献することを基本理念と位置づけています。

2. 基本理念

地球温暖化を始めとする地球環境問題は深刻さを増し、それらへの対応は人類共通の重要課題となっています。このような状況に対し、スズクグループはリサイクル事業と廃棄物処理事業の推進により循環型社会の形成に貢献することが総合リサイクル業としての社会的使命であると認識し、地球環境及び地域環境の保全と環境負荷の低減に向けて積極的な施策を推進します。

3. 環境方針

(1) ISO14001 に適合する環境マネジメントシステムを運用し、継続的に改善するとともに、汚染の予防に努める。

(2) 当グループの業務に関する法的要求事項及び当グループが同意するその他の要求事項を順守する。

(3) 業務を通じて一人ひとりが知恵を出し合い、以下に取り組む。

- ① 資源回収の充実とリサイクルの高度化
- ② 地域社会への貢献
- ③ 省資源・省エネルギー・廃棄物の削減
- ④ 安定した資源リサイクル

Ⅲ. 重要な環境課題や戦略に関する事項

1. 重要な環境課題

<input checked="" type="checkbox"/> 気候変動	<input checked="" type="checkbox"/> 資源循環	<input type="checkbox"/> 生物多様性	<input type="checkbox"/> 廃棄物削減	<input type="checkbox"/> 水・大気汚染
<input checked="" type="checkbox"/> エネルギー	<input type="checkbox"/> 水資源利用	<input type="checkbox"/> 天然資源投入	<input type="checkbox"/> 化学物質管理	<input type="checkbox"/> その他 ^(注4)

(注4) その他の内容 ()

2. 背景情報

(1) 収益獲得機会に関する背景情報

環境やコンプライアンスといった社会的な意識の高まりとともに、「廃棄物の適正な処理」は、すべての企業にとって避けて通れない重要な課題となっています。新しい条例が次々施行されるなど、社会情勢がめまぐるしく変容し、「適正な処理」の定義も年々変わる中、求められる廃棄物処理要件に迅速かつ正確に対応しなければならないのです。

常に変化する状況のなかで、すべてのお取引先の皆様から安心して廃棄物の処理をお任せいただける「総合リサイクル企業」でありたい。この理念のもと、私どもスズクグループは、幅広い事

業展開を行ってまいりました。

「鉄」「非鉄」「産業廃棄物」「廃家電」「廃自動車」と多様化する廃棄物の種類に対応するかたちで業容を拡大させ、今ではスクラップ業界でも有数の規模を誇る企業グループを形成しています。

(2) ビジネスリスクに関する背景情報

周知の通り、廃棄物の適正処理においては様々なごみ問題が叫ばれています。不法投棄、不法焼却、PCB(ポリ塩化ビフェニル)やアスベストなどの有害物質…。当グループでは中間処理後、排出事業者様の廃棄物が適正に処理されることを、マニフェスト(産業廃棄物管理票)等で都度確認しており、また処理委託先に対する訪問審査も定期的に行っています。有害物質や危険物など、処理困難物は受入れ時の検収や受入れ前の内容物確認を強化しており、万一混入していた場合はそのままの状態での返品をさせて頂いております。

また、放射線含有廃棄物をめぐるリスクを回避するため、ハンディ式、ゲート式の放射線測定器をグループ各社で多数導入致しました。様々なビジネスリスクに対し、当グループは積極的な投資と人材育成、社内教育を徹底し、対応しております。

3. ビジョン及び戦略

●グループの目標設定と達成率(2011年度)

下表が、2011年度にスズトクグループ各社・各事業所が設定した目標の一覧です。

省エネ・省資源、法令順守といった本業に関わるものから地域社会への貢献まで、内容は多岐にわたります。今年度の目標設定総数は74件。そのうち、約92%に当たる68件の目標について達成しました。

環境方針	省エネ・省資源・廃棄物削減	資源回収の充実とリサイクルの高度化	安定した資源リサイクル(危機管理)	法令順守・汚染の予防	地域社会への貢献	継続的改善
個々の事業所で掲げた主な目標	7月～9月の使用最大電力を1,447kW以下に 10月～6月は電気使用量を昨年度比で3%削減	回収プラスチック(PP)の売上数量 5,000kg/年以上	近隣住民からの騒音・振動に関するクレームゼロ	フロン漏洩ゼロ	地域活動への参加・協力・貢献 2回以上/月	環境改善、業務改善、職場改善などの個人目標を各人2件以上設定し実行
	7月～9月の電力使用量を昨年度比で10%削減	ミックスメタルの売上単価を昨年度比で8%増	重大事故防止のため ①日常点検実施・記録 ②教育訓練を実施 ③賞罰制度の実施	PCBトランスの受入排除 そのための教育を 年2回実施	企業団地内における不法投棄のない地域づくりの実施	問題点提起または改善提案各人1件/月
	①省電力型OA機器への入替 ②エアコン設定温度を冷房27度・暖房21度とする	新比重差選別機の導入および年度内の稼働	工場内通路等の路盤の凹凸を修繕	有害物質(アスベスト)の受入排除 そのための教育を 年2回実施	公道待機車両による通行障害の緩和	非接触検査の実施 1回/2カ月
	燃費向上のための個人目標を1人1件以上設定し、日常点検表で実行確認	木くずをチップ化し有価売却受入・回収量合計の80%以上	修繕費を昨年度以下に削減	排水排出基準値の順守 BOD(※)8mg/L以下	千葉港港湾運送事業協同組合主催の火災防止、消火活動、防災訓練等の講習への参加	
	コピー用紙への裏紙の再利用220枚/月以上	入荷物に対するシュレッダーダストの割合を50%以下に	事故件数を昨年度以下に削減	岸壁および海上への油流出ゼロ	市民団体等からの見学者受入1件/年以上	
	上記を含め 目標設定件数 26件	上記を含め 目標設定件数 22件	上記を含め 目標設定件数 7件	上記を含め 目標設定件数 5件	上記を含め 目標設定件数 6件	上記を含め 目標設定件数 8件
達成件数	目標達成件数 22件 達成率 84.6%	目標達成件数 20件 達成率 90.9%	目標達成件数 7件 達成率 100%	目標達成件数 5件 達成率 100%	目標達成件数 6件 達成率 100%	目標達成件数 8件 達成率 100%

※BOD…Biochemical Oxygen Demand(生物化学的酸素要求量)

●総合評価と未達成項目について

今年度はグループ全 23 拠点で 74 件の目標を設定。1 拠点平均 3.2 件と、積極的な取り組みを行った 1 年でした。内容に関しては、ほとんどの拠点が「資源回収の充実とリサイクルの高度化」の項目の目標を設定。これは「業務に直結した目標設定および目標達成手段の推進」という昨年の評価指針を受けたものです。一方、震災の影響による夏期節電の全社方針に従い、省電力関連の目標数も昨年の倍以上となりました。

達成できなかった 6 件はすべて「省エネ・省資源・廃棄物削減」「資源回収の充実とリサイクルの高度化」の項目で発生。いずれも計画した手段の実行度評価は良かったものの、残念ながら未達となりました。

原因としては、資源回収については入荷物の構成や市況の変化を読み切れなかったこと、また省電力については、7 月～9 月といったピーク時の電力使用量を下げるなど、目標設定がやや過大だったことなどが考えられます。これらの点は来年度以降の課題とし、引き続き事業活動の環境負荷低減を推進していきます。

IV. 重要な環境課題に関する当年度の対応状況

<p>重要な環境課題</p>	<p>資源循環</p>															
<p>当年度における計画及び取組状況</p>	<p>2011年度はグループ全体で1,047,300tの資源を受け入れ、899,400tを再生資源として社会へ還元しました。品目ごとの内訳を見ると、金属スクラップの受け入れ量は2010年度比で約5%の増加。廃自販機、古紙の受け入れも昨年度比で大きく増加しました。一方、産業廃棄物、廃家電の受け入れは減少。受け入れ資源量の合計では昨年度比2,200tの微減となっています。なお、再資源化物の還元率は2010年度と同じ86%でした。</p> <p>2011年度の環境投資額は16億4,300万円となっており、グループでは、リサイクル率向上のために、磁力選別機の増設や、ミックスメタル(※)の選別装置の新設を行ないました。(※ミックスメタル:非鉄金属類と廃プラスチック等非金属類の混合体)</p> <div data-bbox="395 801 1366 1106" style="border: 1px dashed gray; padding: 10px;"> <p style="text-align: center;">受け入れ資源量</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <ul style="list-style-type: none"> ●金属スクラップ 787,800 t ●産業廃棄物 51,000 t ●廃自動車 151,600 t ●廃自販機 12,300 t ●廃家電 43,200 t ●古紙 1,400 t </td> <td style="width: 10%; text-align: center; vertical-align: middle;"> <p>→</p> </td> <td style="width: 20%; text-align: center; vertical-align: middle;"> <p>スズクグループ</p>  </td> <td style="width: 10%; text-align: center; vertical-align: middle;"> <p>→</p> </td> <td style="width: 5%;"></td> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <p style="text-align: center;">再生資源量</p> <ul style="list-style-type: none"> ●回収鉄 848,000 t ●回収非鉄金属 42,000 t ●製紙原料 1,800 t ●その他再資源化物 7,600 t </td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">●合計 1,047,300 t</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td style="text-align: center;">●合計 899,400 t</td> </tr> </table> </div>				<ul style="list-style-type: none"> ●金属スクラップ 787,800 t ●産業廃棄物 51,000 t ●廃自動車 151,600 t ●廃自販機 12,300 t ●廃家電 43,200 t ●古紙 1,400 t 	<p>→</p>	<p>スズクグループ</p> 	<p>→</p>		<p style="text-align: center;">再生資源量</p> <ul style="list-style-type: none"> ●回収鉄 848,000 t ●回収非鉄金属 42,000 t ●製紙原料 1,800 t ●その他再資源化物 7,600 t 	●合計 1,047,300 t					●合計 899,400 t
<ul style="list-style-type: none"> ●金属スクラップ 787,800 t ●産業廃棄物 51,000 t ●廃自動車 151,600 t ●廃自販機 12,300 t ●廃家電 43,200 t ●古紙 1,400 t 	<p>→</p>	<p>スズクグループ</p> 	<p>→</p>		<p style="text-align: center;">再生資源量</p> <ul style="list-style-type: none"> ●回収鉄 848,000 t ●回収非鉄金属 42,000 t ●製紙原料 1,800 t ●その他再資源化物 7,600 t 											
●合計 1,047,300 t					●合計 899,400 t											
<p>受入資源量(単位:t/年)</p>	<p>金属スクラップ、産業廃棄物、廃自動車、廃自販機、廃家電、古紙等</p>	<p>実績 1,047,300(t/年)</p>	<p>□第三者審査</p>	<p>中期目標^(注5) ()</p>												
<p>再生資源量(単位:t/年)</p>	<p>回収鉄、回収非鉄金属、製紙原料、その他再資源化物</p>	<p>実績 899,400(t/年)</p>	<p>□第三者審査</p>	<p>中期目標^(注5) ()</p>												
<p>再資源化物の還元率(リサイクル率)(単位:%)</p>	<p>還元率(%)は「再生資源量÷(再生資源量+発生廃棄量)×100」で算出</p>	<p>86%</p>														
<p>財務影響等</p>																
<p>結果の分析・評価及び次年度における取組</p>																

重要な環境課題	エネルギー																					
当年度における計画及び取組状況	<p>グループのリサイクル事業は、処理設備などを安定的に稼働する燃料・エネルギーによって支えられています。限りある資源を有効に活用するため、スズクグループは事業活動におけるエネルギー使用の効率化に尽力しています。</p> <p>今年度の使用量は下表およびグラフのとおりです。昨年度に続き、都市ガス・LPG・アセチレンの使用量を大幅に削減。使用量は昨年度比で約18%抑えています。そのほか、軽油・灯油・ガソリン、電力、用水については、それぞれほぼ昨年度と同じ使用量で推移しています。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div data-bbox="395 645 754 907"> <p>事業所のエネルギー等使用量</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>種類</th> <th>量</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>電力</td> <td>31,400 MWh</td> </tr> <tr> <td>軽油・灯油・ガソリン</td> <td>3,100 kL</td> </tr> <tr> <td>都市ガス・LPG・アセチレン</td> <td>34,000 kg</td> </tr> <tr> <td>用水</td> <td>108,000 m³</td> </tr> </tbody> </table> </div> <div data-bbox="788 645 1145 907"> <p>省エネ法への対応</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>特定事業者</th> <th>エネルギー使用量 (2011年度、原油換算)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>鈴徳</td> <td>2,355 kL</td> </tr> <tr> <td>中田屋</td> <td>2,843 kL</td> </tr> <tr> <td>フェニックスメタル</td> <td>2,447 kL</td> </tr> </tbody> </table> <p><small>省エネ法では、企業全体のエネルギー使用量が1,500kL/年以上の企業を「特定事業者」に指定、エネルギー使用の把握と管理を義務付けています。グループのうち、特定事業者に該当するのは上記3社です。</small></p> </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;"> <div data-bbox="395 958 627 1265"> <p>電力</p> </div> <div data-bbox="643 958 874 1265"> <p>軽油・灯油・ガソリン</p> </div> <div data-bbox="890 958 1121 1265"> <p>都市ガス・LPG・アセチレン</p> </div> <div data-bbox="1137 958 1369 1265"> <p>用水</p> </div> </div>				種類	量	電力	31,400 MWh	軽油・灯油・ガソリン	3,100 kL	都市ガス・LPG・アセチレン	34,000 kg	用水	108,000 m ³	特定事業者	エネルギー使用量 (2011年度、原油換算)	鈴徳	2,355 kL	中田屋	2,843 kL	フェニックスメタル	2,447 kL
種類	量																					
電力	31,400 MWh																					
軽油・灯油・ガソリン	3,100 kL																					
都市ガス・LPG・アセチレン	34,000 kg																					
用水	108,000 m ³																					
特定事業者	エネルギー使用量 (2011年度、原油換算)																					
鈴徳	2,355 kL																					
中田屋	2,843 kL																					
フェニックスメタル	2,447 kL																					
各エネルギー等使用量	電力 31,400(MWh)	軽油・灯油・ガソリン 3,100(kl)	都市ガス・LPG・アセチレン 34,000(kg)	用水 108,000(m ³)																		
特定事業者三社の省エネ法への対応 ※当グループのうち、2010年4月施行の改正省エネ法の特定事業者には該当するのは	(株)鈴徳 2,355(kl)	中田屋(株) 2,843(kl)	フェニックスメタル(株) 2,447(kl)																			

右記の三社 です。				
財務影響 等				
結果の分 析・評価及 び次年度 における取 組				

(注5) 中期目標の年度 ()

重要な環境課題	気候変動																							
当年度における計 画及び取組状況	<p>トラックによる運搬、機械設備の操業時などに空气中へ排出される二酸化炭素(CO2)の削減にも努めています。今年度のCO2排出量は、昨年度とほぼ同量の19,700t-CO2で推移しました。</p> <p>今後もグループでは引き続き、CO2削減に向けた取り組みを行なっていきます。</p>																							
	<table border="1"> <caption>CO2排出量と原単位の推移</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>電力 (t-CO2)</th> <th>軽油 (t-CO2)</th> <th>その他 (t-CO2)</th> <th>再生資源出荷量当たりのCO2排出量原単位 (t-CO2/t)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>2009</td> <td>10,000</td> <td>7,000</td> <td>1,400</td> <td>0.022</td> </tr> <tr> <td>2010</td> <td>10,000</td> <td>7,500</td> <td>2,100</td> <td>0.022</td> </tr> <tr> <td>2011</td> <td>10,000</td> <td>7,500</td> <td>2,200</td> <td>0.022</td> </tr> </tbody> </table>				年度	電力 (t-CO2)	軽油 (t-CO2)	その他 (t-CO2)	再生資源出荷量当たりのCO2排出量原単位 (t-CO2/t)	2009	10,000	7,000	1,400	0.022	2010	10,000	7,500	2,100	0.022	2011	10,000	7,500	2,200	0.022
年度	電力 (t-CO2)	軽油 (t-CO2)	その他 (t-CO2)	再生資源出荷量当たりのCO2排出量原単位 (t-CO2/t)																				
2009	10,000	7,000	1,400	0.022																				
2010	10,000	7,500	2,100	0.022																				
2011	10,000	7,500	2,200	0.022																				
エネルギー使用に 伴うCO2排出量	総量	19,700(t-CO2)																						
再生資源出荷量当 たりのCO2排出量	原単位	0.022(t-CO2/t)																						
財務影響等																								
結果の分析・評価 及び次年度におけ る取組																								

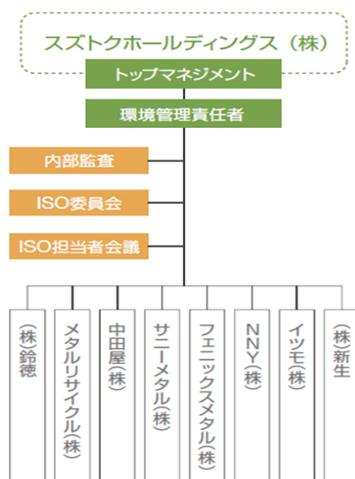
(注5) 中期目標の年度 ()

V. 組織体制及びガバナンスの状況

1. 環境経営の組織体制等

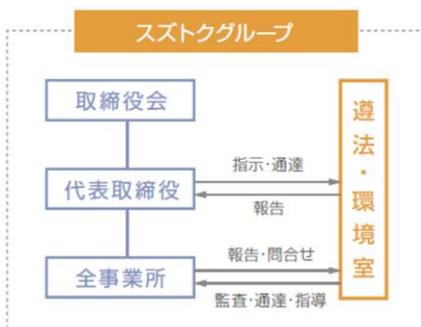
グループは、ISO14001 に適合する環境マネジメントシステム(EMS)を運用しています。2009年にグループ内各社で個別に運用していたEMSを一つに統合し、適用範囲を全事業所に拡大しました。

当グループのEMSの特徴は、本業そのものが循環型社会形成に向けた環境活動であること。そこで、環境方針では、リサイクル事業と廃棄物処理事業の推進により循環型社会の形成に貢献することを基本理念に位置づけた上で、①資源回収の充実とリサイクルの高度化、②地域社会への貢献、③省資源、省エネルギー・廃棄物の削減、④安定した資源リサイクルとし、本業におけるEMSの活用を行っています。



2. 環境に関する規制等への遵守状況

「安全」と並び、グループの事業にとってもっとも重要なのが「コンプライアンス(法令遵守)」です。お客様や社会へ継続的に貢献するためには、事業のあらゆる側面を、法に照らして運用することが必須。そのため、現場の監査、社員への法知識教育などにより適正な事業活動を推進しています。



●グループの遵法を司る「遵法・環境室」

グループのコンプライアンスを管轄する部門として、スズクホールディングス(株)に遵法・環境室を設置しています。各事業所が法に則った業務を実施できているか監査する「遵法監査」を行なうほか、各現場からの法律に関する日常的な問い合わせ対応、社員向け法律研修の実施など

を行なっています。

また、廃棄物の処理委託は、契約書やマニフェストなど、各種の書類に基づいて進められます。それらの書類や、各事業所が所有する許可証の期限などを IT システムによって一元的に管理する役割も担っています。

●事業の適法性を守る「遵法監査」

遵法・環境室スタッフがグループの全事業所を訪問し、廃棄物処理の適法性、書類管理の状態などを厳正に審査するのが「遵法監査」です。

監査は、1年に1回の「遵法監査」、遵法監査の指摘の改善状況を再チェックする「フォローアップ監査」、そのほか年ごとの重点項目などをチェックする「臨時監査」の3種類で構成。指摘項目の改善方法については、遵法・環境室が現場とともに検討し、実行までのプロセスを支援します。

単に不備を指摘するだけでなく、改善が認められるまでを継続的にフォローすることで、グループでは全事業所の適法な業務を徹底しています。

VI. バリューチェーンにおける環境配慮等の取組状況

1. グリーン調達の実施状況

--

2. 製品・商品・サービス等による環境負荷低減

--

VII. その他の事項

(以下については、環境報告書等を参照することも可能です。ただし、環境報告を作成していない場合や当年度に新たな事象の発生や変更があった場合には、該当する事項を記載して下さい。)

1. 組織体制及びガバナンスの状況

(1) 環境監査及び環境教育

グループ 23 拠点でそれぞれ ISO の管理担当者を選任しています。定期的に会議を開き、効果的な EMS の運用方法を検討しているほか、実際に効果があった取組みの例などを持ち寄り、共有・活用しています。

また、EMS における各目標の有効性・達成状況等のチェックを目的として、全 23 事業所および委員会を対象に内部監査を実施しています。各事業所の ISO 担当者が監査員となり半日を掛けて相互に監査し、良好点・助言・指摘を抽出し、改善に結びつけています。

(2)災害事故等への対応状況

「安全」は、グループの事業においてすべてに優先すべきもの。安全な労働環境の整備なくして、適正リサイクルは実現できません。そのため、スズクグループでは、現場に存在するリスクを的確に把握し、効果的な対策を打つための取り組みを継続的に行なっています。

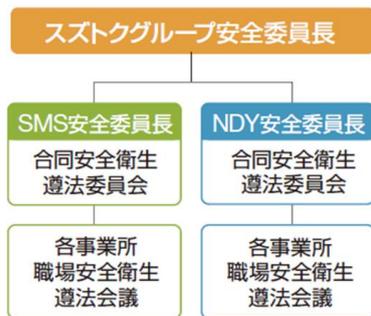
●労働安全衛生体制の概要

産業の高度化、新素材の登場などを背景に、リサイクル業においては、取り扱う品物が日々移り変わります。これにより、処理時のリスク要因も刻々と変化。労働の安全を維持するためには、継続的な改善活動が欠かせません。

そのため、グループでは下図のような労働安全衛生管理体制を整備しています。この体制のもと、各事業所の事故例の共有、安全ルールの策定・呼びかけなど、社員の安全意識を向上するための施策を実施。また、インフラ整備による労働環境改善にも尽力しています。

SMSグループ：(株)鈴徳、メタルリサイクル(株)、(株)新生のグループ三社で構成

NDYグループ：中田屋(株)、サニーメタル(株)、フェニックスメタル(株)、NNY(株)、イツモ(株)のグループ五社で構成

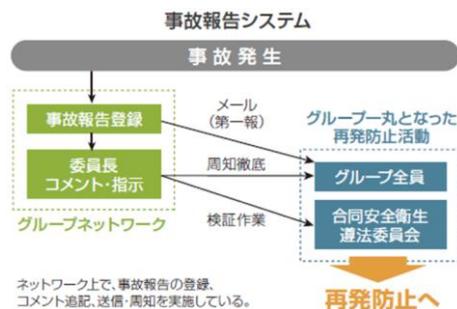


●事故の再発を防ぐ「事故報告システム」

危険はないに越したことはありません。しかし、現場作業においては、どうしても大小の事故が発生することがあります。そうした事例を再発防止に役立てるため、スズクグループではITを活用したシステムを整備。この「事故報告システム」は、事故の発生経緯や内容を、グループ内の全拠点で閲覧できるようにしたものです。

事故情報を登録すると、社員全員にメールにて通知されます。発生時の詳しい状況などを全拠点で逐次共有し、再発防止に役立っています。

また、合同安全衛生遵法委員会では、システムに登録された情報を定期的に検証。特に重要と思われるものについては具体的な再発防止策を策定し、各事業所・社員へ発信しています。



2. ステークホルダーへの対応状況

排出事業者や収集運搬業者の皆様を対象とし、廃棄物処理法(※)を分かりやすく解説する研修を実施しました。また、遵法業務に関する当グループの様々な取り決めを文書化し、都度、配布しています。(※廃棄物処理法:「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」)

3. 社会的取組の状況

4. 後発事象

特になし

【補足情報】

(以下において、記載をしない項目は削除してください。斜体文字は記載例です。)

(環境負荷量の時系列一覧)

KPI 等	○年度	○年度	○年度	備考
<i>温室効果ガス排出量 (総量)</i>	()	()	()	* 1
<i>温室効果ガス排出量 (原単位)</i>	()	()	()	* 2
	()	()	()	* 3

主要なパフォーマンス指標(KPI)及び KPI と関連する環境負荷量の直近 3 年分

(数値情報に関する補足情報)

- * 1 算定方法(算定式、係数等)
- * 2 算定方法(算定式、係数等)
- * 3 ライフサイクルにおける活動別環境負荷量

上記に関わる算定方法(算定式、係数等)、報告セグメント別の環境負荷量、ライフサイクルにおける活動別環境負荷量など

活動区分	温室効果ガス排出量
<i>原料調達</i>	
<i>生産</i>	
<i>使用</i>	

法令により国に報告した環境負荷量のうち、重要な課題に関するものなど

(法令等により国に報告した環境負荷量)

会社名	温室効果ガス排出量	備考
<i>A社</i>		* 1
<i>B社</i>		

※算定基準(算定式、係数等)が「数値情報に関する補足情報」と相違する場合 (その内容)

- * 1 根拠法令等(温対法)
- * 2 算定方法(算定式、係数等)

(組織体制等)



組織体制等の全体像や他の組織体制との関係が分かる図

(環境配慮製品の研究開発等)



環境配慮型製品の研究開発等の具体的なイメージ

(環境報告書の関連ページ一覧表)

環境報告書等の有無	<input type="checkbox"/> あり	<input type="checkbox"/> 予定あり ^{注4}	<input type="checkbox"/> なし
-----------	-----------------------------	---	-----------------------------

(注4) 環境報告書等の策定予定年月 (年 月)

環境報告書等の名称(、URL)

環境報告(要約版)の記載項目	該当 ページ	環境報告(要約版)の記載項目	該当 ページ
I. 基本的事項		V. 組織体制及びガバナンスの状況	
II. 経営責任者の緒言や方針に関する事項		1. 環境経営の組織体制等	
1. 経営責任者の緒言		2. 環境に関する規制等への遵守状況	
2. 環境配慮の方針		VI. バリューチェーンにおける環境配慮等の取組状況	
III. 重要な環境課題や戦略に関する事項		1. グリーン調達の実施状況	
1. 重要な環境課題		2. 製品・商品・サービス等による環境負荷低減	
2. 背景情報		VII. その他の事項	
3. ビジョン及び戦略		1. 組織体制及びガバナンスの状況	
IV. 重要な環境課題に関する当年度の対応状況		(1) 環境監査及び環境教育	
1. 重要な環境課題(気候変動)		(2) 災害事故等への対応状況	
2. 重要な環境課題()		2. ステークホルダーへの対応状況	
3. 重要な環境課題()		4. 後発事象	